

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

頭部打撲後に症候性慢性硬膜下血腫を発症するリスク因子の検討

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 脳神経外科 医局長 （研究責任者）小林真人

＜研究期間＞

機関の長の初回許可日 ～ 令和 10 （西暦 2028 ）年 3 月 31 日

＜対象となる方＞

2014年1月1日から2025年12月31日までに、頭部打撲にて当院を受診され、頭部単純CTスキャンを受けられた方

＜研究の目的＞

頭部打撲から約1カ月後に、脳の周囲に血腫が貯留する、慢性硬膜下血腫を発症することが知られています。貯留した血腫の脳への圧迫により、麻痺や歩行障害、認知機能障害が出現します。頭部を打撲された方全てに発症する疾患ではなく、高齢の方や、頭部単純CTで脳の周囲のスペースが広い方、アルコール多飲歴のある方、維持透析中の方、抗血栓薬内服中の方に発症しやすいことがわかっています。一方でこれらのリスク因子を網羅的に調査した研究はほとんど存在しません。本研究は、カルテデータやCTの所見などを参考に、頭部打撲後に麻痺や歩行障害などをきたすような症候性の慢性硬膜下血腫を発症するリスクのある方を明らかにすることを目的としています。

＜研究の方法＞

カルテデータや頭部単純CT記録、手術記録などを参考に、過去に頭部打撲で受診された方のデータを収集し、慢性硬膜下血腫を発症した方とそうでない方の解析を行います。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

頭部外傷で受診された方の、初回頭部CT施行時の年齢、性別、受診年月日、受傷機転（転倒、転落、交通事故など）、頭部単純CTでの所見（特に脳の周囲のスペースの広さ）、アルコール性肝障害、維持透析、抗血栓薬使用の有無などを検討します。

~~診療記録、検査記録、手術記録等~~

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都大谷口上町30-1）

脳神経外科 氏名：小林 真人

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2481 (PHS) 8775

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方